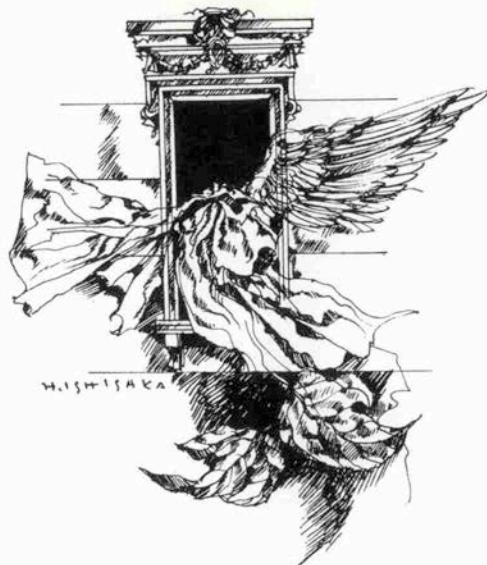


‘80結婚特集〈I〉詩とエッセイ  
〔なぜ結婚するの…。〕



# ふしぎ

安水稔和

〈詩人〉

ひとりの風が  
ひとりの風と  
ふとてあい  
ふたりの風になるかな。

ひとりの鹿が  
ひとりの鹿と

ふとみつめあい

ふたりの鹿になるかな。

ひとりの太郎が  
ひとりの花子と  
ふとだまりこみ

ふたりのひとになるかな。

なるかな。

なるかな。

なるかな。

なつた。

\*

さて

ここまでが

ふしき。

さて

これからが

ほんとうのふしき。

‘’80結婚特集〈II〉詩とエッセイ  
〔なぜ結婚するの…〕



# ホメ合ひ結婚

田辺聖子（作家）

もし私が八十歳で、相棒が八十四歳になつているとしたら——（ウチは四つちがいなんです）それはもう、大きな声で胸を張つて、結婚とはこういうもの、といえるのであるが、まだそこまでいってないので、ただいまは、「運転中話しかけないで下さい」というところである。自信がない。

結婚生活って、ホント、綱渡りだと思う。

特に私は仕事をもつてゐるし、向うも持つてゐるし、（ただし、いまは療養中で、開店休業であるが）私の仕事は何時から何時までということなく、忙がしいときはむちゃくちやに髪ふりみだし

てやつてるので、ふつうの結婚生活と同じにいかない。今日は二人とも仲よくやつてゐるが、あるいは明日はどうなつてゐるか、神のみぞ知る、というところがある。子供もないから、二人が別れるとなると、それを繋ぐ絆は何もないわけである。

それにどつちも剛情っぱりだらうから、いきがかりで別れてしまうことがある——かもしけない。

まあ、そう思い思ひ、十五、六年やつてきたので、それを考へると、やっぱり相性がいいのかな。

これをいいたくて、ここまでしゃべったのではないですが。

それともひとつ、相棒は再婚だけど、どっちかが、あるいは両方が再婚の場合、これはかなりうまくいくんじゃないか、と私は思っている。最初

はともかく、二度目になると、人生キャリアも積み、自分の好みも出て、自我や自由意志で相手を選べることが多い。離婚は女の勲章、といわれたのはもう昔のことと、生別死別の男や女は、これから的人生にこそ幸福のチャンスがあると考えて頂きたい。それからしても、恋愛は若いときにたくさんしたらいけれど、結婚は晩婚をすすめたくなるのである。

それから私の場合は、なげなしの才能をはたいて、苦しい仕事をしているので、結婚は全く、気の安まる、心のよりどころでなくては困る。仕事の上に相棒に気を使っていたのでは死んでしまう。そうはいっても、私たちの世代は昔風のしつけや男性観を受けているから、なかなかに、相棒の動静を無視してこっちの仕事に没頭し、こっちの都合を優先させることはできないけれど。そのかわり、ヤツの顔色をうかがったり、イロイロ気を使つて仕事をセーブするから、かえつてそれで私の健康が保たれる、ということもあるかもしれない。

結婚の相棒というのは、気楽な存在であるのがいい。

気楽というのは、沈黙の責任をとらなくともよいことである。

しゃべりたいときはしゃべれるし、黙っていたいときは黙つていられる、それで圧迫感もなにもない男が多い。

仕事の苦労はお互いにいつてもしょうがないし、きいてもどうにもできないし、してあげられないが、一緒に暮らしていれば、ムーとしているのはお互いに分るものである。そういうときは、私なんかだと、やっぱり相棒に、

「あんたは天才」

といつてもらいたいな。「あんたは大将」という歌があつたけど、ウソと知りつつ、相棒は「あんたは名医」といつてくれるの、私も「あんたは天才」というわけである。

結婚にはいろんな型があり、それぞれの性格や好みがあるから、千差万別だけれど、これから結婚しよう、という方々には、私は、相性というのは、やっぱりどうしようもなくあるものだ、といってあげたい。条件がいいから、と、それだけに気をひかれるのは危険である。

そうして、この広い世間に、最後までかばい合える戦友は、やっぱり夫と妻なのだから、どちらかが傷ついたとき、「あんたは天才」「あんたは美人」とホメたり力づけたりできる相手であるのが望ましい。

‘’80結婚特集(III)詩とエッセイ  
「なぜ結婚するの…。」



# ああ結婚

楠本憲吉 〈俳人〉

男と女とが結婚したときには、かれらの小説は終りを告げ、かれらの歴史が始まる。

ロシエビュルス

新日本憲法では、その第二十四条に、「婚姻は、両性の合意のみに基いて成立」と規定され、一九四八年、第三回国連総会で採択された「人権に関する世界宣言」では、その第十六条第二項に、「婚姻は、夫婦となるとする者の自由でかつ完全な同意のみによって成立する」とある。

昭和二十二年の「民法改正」では、旧法の「戸主」「家族」という規定が削られ、結婚の場合、夫婦は夫または妻のいすれの“姓”を使用してもいいことになり、明治三十一年につくられた「民

法」の家父長權——三十歳未満の男子と二十五歳未満の女子が結婚するには父母の同意を必要とする——や、妻のみに適用される姦通罪は排除され、封建的な家族制度から完全に区別された結婚制度または夫婦制度が確立されたわけである。

たとえば実家ということばは、婚家に定着できぬ妻の座の不安定度を示すものであつたが、昨今は、「僕、実家へ帰らせてもらいます」という男性がふえたそうで、「嫁入り」から「ムコ入り」的要素が至極濃厚になってきたことを物語り、つくづく世の中も変わったもんだと思う。

大化の改新に始まつた律令の法定婚姻令は男が十五歳、女が十三歳、祖父母や父母などの婚主の許可のない結婚は姦通罪として処罰され、重婚も

禁止、中国の儒教思想をもとにしたきびしい家父長的家族制度をもとにしたものであった。当然男尊女卑の思想で貫かれ、妻は離婚を要求できず、一方的に夫から離婚されるようになつておらず、律令制こそ女性にとってまことにシビアな桎梏であったのだ。平安時代に入ると一夫多妻制が原則で、令制による天皇の「正式さん」は、正妻としての皇后のほかに妃（中宮）二人、夫人（女御）三人、嬪（更衣）四人、メめて定員九人であった。一夫一婦制の戒律を教え、夫婦の離婚の罪を説いたのはキリスト教渡来後で、女性にとってまさに神武以来の福音であったわけだが、江戸幕府のキリシタン弾圧によってこの天來の福音も一場の夢と消え、さきに書いた明治新民法が制定されるまで、一夫一妻のかけに涙をのまされたわけである。

昭和三十一年の五月、売春禁止法が成立、翌三十二年四月発効となり、日本全国から赤線地帯の灯が消え、ここに文字通り「線後派」が誕生したわけである。

戦後日本におけるアダムとイブは、満二十歳になりさえすれば、父母の同意なしに自由に結婚ができ、当事者間に婚姻の意志が無くなれば合意のうえで離婚でき、「マイホーム、マイオカアチヤンマイババヌキ」の生活が天下晴れて実行できるようになつたのだが、カントの思索したような真の一夫一婦制、純粹な愛情で結ばれ、夫婦互いに自由で平等な、眞実輝かしい結婚黄金時代となつたかどうか——それは昨今のブームの一つに数えられている身の上相談を見ればわかることであろう。

嫁さんを貰えば即「亭主」である。亭主は『首楞嚴經』という仏典中のことばで「亭をつかさどる

る人』が「亭主」である。さすれば、女房を「房（部屋）」をつかさどる女ということになる。

シンガーソングライターのさだまさしの「関白宣言」は一九七九年のヒットソングになつたが、「俺より早く寝るな」「亭主の浮気は覚悟しろ」といっておきながら、最後は「やっぱりお前を愛している」という本音を吐き、これがヒットの原因となつたという何とも情けない歌である。

「亭主の好きな赤鳥帽子」というのは、室町のころ「数奇の赤鳥帽子」といえば「物好きのサンブル」とされていたもので、主人好みのものであればたとえ赤鳥帽子であろうと同調しなくてはならないという意味であろう。「似たもの夫婦」ということばもこのあたりから出てくるものである。

ところで「結婚」という字は、昏くなつてから女と結ばれるという語源を持つ字だそうだ。

石川達三は、

「結婚の最大のよろこびは、新婚のたのしさではなくて、新婚時代が終つたところから始まる人生創造の努力と、その実施にある。倦怠期といふのは、創造的意欲をもたない夫婦にあたえられる、処罰みたいなものだ」

という。

ではひとはなぜ結婚するのか。いわく種族本能、同棲本能、性本能といろいろ高説があるようだが、ただ慢然と社会的慣習、その順応への一結果が一番多いのではないか。とすれば独身とう「自由」の犠牲はあまりにも大きいし、一人の男・女を選んだために、それ以外の絶対多数をあきらめねばならぬという代償はあまりにも高価過ぎはしないだろうか。

# '80結婚特集〈IV〉詩とエッセイ 〔なぜ結婚するの…。〕



# 結婚サンカン力

田口 寛治

（神戸大学教授）

「神戸っ子」から「ケッコンサンカ」の原稿を書けという電話依頼を受けました。私には、しばし、その意味がわかりませんでした。「ケッコン」は「結婚」だろうと思いましたが、「サンカ」は、「惨禍？ 参加？ 酸化？」。「ああそうか、讃歌か」と気がついたものの、「さて何を書いたらいいか」「とても私には書けそうもない」というのが実感でした。私のためらいに対して、電話の相手は「必ずしも讀える文章でなくてよい」という。

それでも、なるべくご期待にそおうと思って、数日考えつづけましたが、適当な内容が浮びません。

ん。せっぱつまって、手もとにある内外の「名言名句集」を開いてみました。大発見をしました。「結婚」という章にも、名言名句がたくさん並んでいましたが、「讃歌」とおぼしきものは一つもないのです。「結婚は恋愛の墓場」というようなよく知られたものをはじめ、「多くの結婚生活はダンテの神曲と逆である。天国に始まって煉獄に移り、地獄に終わる」「結婚をしようとする者は、後悔の道へと進む」「男は退屈から結婚する。女は物好きから結婚する。そして両方とも失望する」。さらには、もしこの文章が、結婚式を目前

にして胸をおどらせている若い人たちの目にふれると、あまりに惨酷だと思われる所以で、ここに紹介することをはばかりたくなるようなものまであります。

私は、かねがね、結婚式に招待されて、かわいい花嫁さんを見ると、「これから苦労するだろうに、かわいそうに」とは思っても、なかなか素直に「おめでとう」という気持ちになれませんでした。そこには、花婿さんへの「しつと」もまじつてゐるのではないかと、私の心事のいやしさを恥じたこともあります。また私以外の列席者は、本当に、あの祝辞どおりに、「おめでとう」と思つてゐるのだろうかと思つたこともありました。そ

んな私の気持ちをズバリ表現した「名句」もあります。「男たちは、花嫁に会うと、彼女の顔を見るが、女たちは彼女の晴着を見る」。私だけが異常ではないことを知りました。

もう一つ発見しました。それは、参考までに「名言名句集」の「恋愛」と「家庭」の章を見てみると、語調が一変することです。讃美が断然ふえてきます。「恋愛」については、「恋愛は至上なり」「恋とは、われわれの魂のもつとも純粹な部分が未知のものに向かっていだく聖なるあこがれである」「恋愛は、生物が性を通して天的なものに達せんとする生命の営みである」。家庭については、「炉刃のまどいより愉しいところはない」

「王様であろうと、百姓であろうと、自己の家庭で平和を見出す者が、いちばん幸福な人間である」という調子です。親であることの喜び、母親の崇高さに対する賛美などは、とても枚挙できな

いほど、たくさんあります。

考えてみれば、「名言名句集」も、ずいぶん無責任といえば無責任ですね。その言葉どおりに受けとると、恋愛はこの世で一番すばらしいものだが、結婚すると絶望しますよ。結婚はしないほうがいいが、家庭はもちなさい。家庭こそ、この世の至福ですよ、ということになりそうです。いったい、どうしろというのだ、といいたくなります。

だが、そういう読み方は、やはりツムジまがりなのだと思います。一見、矛盾しているように見える名言名句は、どれも人生の本質をついているのだと思います。至福の家庭があるとすれば、それは「恋愛の墓場」の上に建てられるものなのでしょう。恋愛の墓場は、「恋愛」の墓場であつても、そこから何か新しいものが、不死鳥のように、誕生する場なのだと思います。墓場がなければ、新しいものの誕生もないということなのでしょ

うか。

さて、この文章は、結婚サンカになつたのでし

# 私達の



# 結婚アルバム

♡質問 ①ご結婚は何年何月何日ですか？ ②式の形式は？（eg、神前、仏前、人前）また、どういう理由ですか？ ③式・披露宴でのエピソードなどを。



緊張した面持ちの陳夫妻



服部家では2月と5月相続して結婚が…

①昭和55年2月10日。  
②キリスト教式結婚。両親が婚約した時、二人で洗礼を受けたといふことを聞いていました。そのままねをしたわけではないのですが、偶然、僕達も同じ手続きをふんでクリスチヤンになりましたので、神戸聖ミカエル教会で結婚式を挙げました。

③披露宴だけなわの頃です。二度目のお色直しに出て行つたまま、待てどくらせどなかなか花嫁が戻ってきません。

司会をしてくれた親友が、臨機応変に宴席の間をマイクを持ってまわりました。

三ヵ月先に結婚を控えた妹のところへ行つて「彼はどんなお兄さんでしたか？」妹いわく「弟のような兄でした」。一つ年下の弟にも同じ質問をしました。彼いわく「息子のような兄でした」

司会者いわく「大変複雑な家庭のようでした――」

皆はどうと笑いました。

僕は大声で叫びたくなりました。「やさしくしてればつけあがりやがつて――おれの立場はいったいどうなるんだ!!」と。

♡陳

芝 瑞 東  
蘭

△東京大学付属病院産婦人科助手▽

①昭和55年5月3日。

②神前結婚でした（父が決めました）。

③結婚指輪を夫の右手薬指に入れてしまいました。

♡服 部 玲 介

△住友海上火災保険株式会社勤務▽

みさ子

♡立野博久

まどか

△浅井産業株式会社勤務

①昭和55年5月11日。

②神前結婚（特に信仰が篤かったわけではなく、ただ、ホテルのベルトコンベアに乗っただけです）。

③別にこれといったエピソードはなかったのですが、これから挙式される方に恵みを——ふつう、式場での写真撮影は絶対いけない、ということになっています。



前頁、服部玲介氏の妹、まどかさんの晴れ姿です

♡大村邦年

恵美子

△臨海建設株式会社勤務

①昭和55年4月29日。

②ハワイの教会で式を挙げました以前からの願望でした。

③式へは二人で行き、現地の人々に祝福していただきました。花々に

囲まれた素敵な教会での結婚式でした。写真は式を終えてホットヒュンというところです。ハネムーンを兼ねてのすばらしい結婚式でした。披露宴は後日日本で行いました。子供からお年寄りまで大勢

でも私達は直前に神主さんを、文字通り袖の下で“買取”（？）

して、三々九度や指輪交換などの決定的瞬間をバツチリと写すこと

ができました（何の沙汰も金次第

というべきでしょうか？）。



“Holiday in HAWAII”—大村夫妻

♡竹原茂樹

恵子

△株式会社三神通商勤務

①54年11月27日

②香港で珍しい“密教”的式を挙げました（香港はクリスチヤンじゃないと教会での式がむづかしいのです）。

③そもそもは友人の結婚式に付き添うためフィリピンに行くはずでしたが“それなら私たちも”ということで香港に立ち寄り、新郎（香港大学出身なので）の恩師の手で（その方は密教の高僧でした）挙式。だから、そのあとフィリピン旅行は新婚旅行兼というわけです。アツアツのカップルがアツアツの結婚式に出席したのでありました。



まるで映画のシーン—竹原夫妻

♡高石義博

佐世子

△カネボウ勤務▽

①昭和55年3月28日です。

②ホテル内での神前結婚。

③お式はあわただしくて、かつらがチヨップビリきついのも忘れてし

まうほどでした。私達二人の出入りが多かったのと、たいくつしない楽しい披露宴だったので、あつという間に終わってしまいました

四時間近かったそうですが……。

式が終わった後で、お互いでこがよくて結婚したのと話しあつたとき、私は彼に「面くいじやなかつたのよ。顔や形じやなくて人柄が好きだつたから……」といつたら、彼も「ぼくも面くいじやなかつたよ」といいました。

でも結局、私は辰之助さんに似てるステキな彼を旦那さんとしたのですが……。



“絵になる二人”の高石夫妻

♡岡嶋豊

真知

△弁護士▽

①昭和55年5月10日。

②神前です。白無垢姿が自然だと

思つたからです。

③最後の花束贈呈で、それぞれ相手のお父さんの胸に花をつけるのに新郎がかん違いして自分の親につけるように花嫁に指示した。



お人形のようにカワユイ花嫁さんです

♡森本直樹

有美子

△西宮酒造株式会社勤務▽

①昭和55年2月16日。

②神前結婚。子供の頃から白無垢が着たかったので。

③新婦の父が蘭栽培を趣味としているため、海外（ハワイ、シンガポール）から、カトレアやシンビジュム等各種の洋蘭を取り寄せ、会場には蘭の甘い香りが満ちあふれました。



祝福に包まれて教会を出る門前夫妻

♡門前喜康

寛子

△サンテレビ制作部勤務▽

①昭和55年6月15日。

②聖マリア・マグダレン教会。小生がクリスチヤンなので。

③指輪交換の時、彼女と小生のリングを間違えて牧師をハラハラさせたり、教会退場の時、花をまきながら歩いてくれるハズの先輩の子供さん達が、花をまくのに専念して一歩も歩いてくれなかつたり……そんな一つ一つが、苦笑しながら見守つてくれた人達の温かさと共に、心に焼きついています。



♡ 王 泰康

恵文

△神戸元町別館牡丹園勤務▽

①昭和55年7月17日。

②証婚人（日本でいえば神主さん）の前で、新郎・新娘、両親、双方の介紹人（仲人さんのようなもの）が署名し、結婚証書をつくりました。中国の風習で、親戚一同から独身最後のプレゼントとして赤い紙に包んだ利是（お祝い）をミカンをそえて頂きました。ミカンは、中国では「古」同音なのです。

③中国式の結婚式というのは、とにかく賑やかで盛大にやります。

一人でも多くの人と喜びを分ち合いたい気持からです。僕たちの場合も、在神華僑の方はほとんど来ていただき総勢八百名。全テーブルを回って敬酒、敬茶、敬煙をするのが本式ですが、キャンドルサービスに代えました。横浜の校友会の方の獅子舞が素晴しかった。



齊藤努アナウンサーの問い合わせにニッコリの王夫妻

♡ 高森宏之

理恵子

△東亜交易株式会社勤務▽

①今年の4月26日。

②キリスト教式。彼女が松蔭出身で、私もY.M.C.Aで活動していたことがあるため。

③ラジオ関西の三浦紘朗さんに司会してもらい、嫁さんは皆から品行方正、成績優秀と賞められましたが、私の方は下工作の甲斐もなく徹底してこきおろされました。



厳粛なる緊張の一瞬です

♡ 高嶋順滋

京子

△日本リクリートセンター勤務▽

55年5月18日、神前で（式場が神社だった）。披露宴では、古傷

に触れる話に酒や料理がのどを通らず、学生時代の貧乏暮らしに花が咲き、心中穏かなはず、喜びの花が羞恥の真っ赤な花に変わりました。その後も、トイレが近くなり、我慢のため青い花も咲き、わけのわからぬ花に囲まれた一生の

思い出を胸にアメリカへと発った次第です。

♡ 山野城二美

△株式会社サンアングル勤務▽

①今年の6月8日。

②Y.M.C.Aのチャペル（純白のウエディングを着たいという初美の希望で）。

③式の直前まで慌しく、発送した招待状をあとから読み直すと“ウエディング・ビル”となっていて皆にさんざんからかわれました。

意気込んだりの鎧びらき—山野夫妻



シワセいっぱいの高嶋夫妻

# 佳人吉日

'80結婚特集 • きみ微笑めば…

*When you're smiling*



## <モデル>

陳 愛珠・鮑 悅凱  
吉田 ひろ子・新井 宗平  
樺山 優子・東坂 慶一  
芹澤 奈穂子・武田 真澄  
島添 有子・三浦 三枝

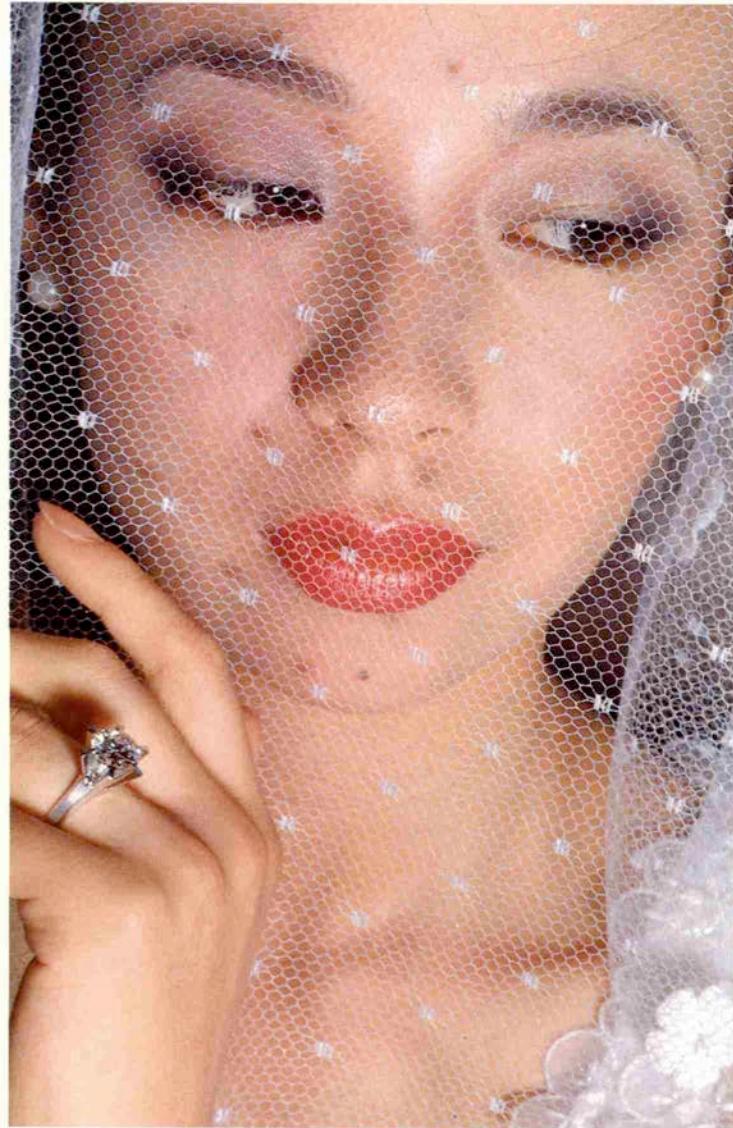
## <カメラ>

山口 清  
米田 定藏 橋本 英男

## <メイク、ヘア>

香川 たけし

参考資料 / 「アメリカンボビュラー」  
誠文堂新光社刊



いつも微笑んでいて

くださいね。

あなたが微笑めば

世界も微笑むのです。

宝飾店  
*Tajima*  
タジマ

元町2丁目 TEL 331-5761代表  
8月4日～13日夏休みをいたします。

タジマでは宝石の鑑定を無料でご相談に応じておりますのでお気軽にご相談下さい。定休日は水曜日です。



# 香 華

コーヒー香るにしむらの部屋

## You're the top

あなたが一番。あなたはコロシアム。あなたが一番、あなたはルーブル博物館。あなたはシュトラウスのシンフォニーのメロディー。あなたはスペインの夜の紫色のあかり。あなたはシェイクスピアの詩。あなたはミッキー・マウス。あなたはナイル河。あなたの微笑みはモナリザ。あなたはさわやかな朝の珈琲。



## 宮水COFFEEの にしむら 珈琲店

中山手本店〈中山手1丁目〉	221-1872	8:30AM - 11:00PM
北野店〈会員制・山本通2の9〉	242-2467	10:00AM - 11:00PM
三宮店〈国鉄三宮駅山側グリーンショービル1F〉	241-2777	8:00AM - 11:00PM
センター街店〈三宮センター街〉	391-0669	10:00AM - 10:00PM
芦屋店〈阪神芦屋駅浜側〉	0797-31-0580	8:00AM - 10:00PM
石屋川店〈阪神石屋川駅浜側〉	841-0763	8:00AM - 10:00PM





## *Beautiful dreamer*

夢みる佳人

お嫁に行くあなたに贈ります。手づくりの神戸家具を。

欧風家具・婚礼調度 設計・創作

永田良介商店

神戸市生田区三宮町・大丸前 TEL 078(391)3737

東京都・東急百貨店 日本橋店内 6階 TEL 03(211)0511 本店(渋谷) 7階 TEL 03(477)3180 工場 神戸木工センター TEL 078(784)5913



My favourite things  
わたしのお気に入り  
この窓辺で見るあなた。

レストラン ナイトクラブ  
**北野 クラブ**

神戸市生田区北野町1-64  
☎ (078) 222-5123

ナイトクラブ

神戸市生田区京町77-1神栄ビル7F  
☎ (078) 321-1455

MENU 8,000円

Terrine de Jardin au Coulis de Tomate  
野菜のテリーストマトソース

Paris Soir スーパーバリの黄昏

Gratine de Fruits de Mer

海の幸のグラタン

Sorbet Champagne Rosé

ローズ色のシャンパンのシャーベット

Fillet de Boeuf à la Monégasque

神戸肉ヘレステーキモナコ風

Salade Vertes グリーンサラダ

Timbale Elysée エリーゼ宮のお菓子

Petits Fours 小菓子

Café コーヒー

♥ご結婚一周年記念にはカップルでお食事にご招待いたします。